

【学校教育目標】

豊かな心とたくましい体をもつ生徒の育成

- よく考え、判断し、言動に責任を持つ生徒
- 立場を理解し、互いに助け合い向上する生徒
- 粘り強くやり通す意思と実行力を持つ生徒

【本校の課題】

- 小学校からクラブ活動に属し、専門的な競技を身につけた生徒が多いため、オールラウンドな運動ができない。
- 運動が好きな生徒と、苦手意識を持っている生徒との二極化がある。

【現状】

- 保健体育の授業が楽しい答えた生徒の割合が、全学年ともに多数を占めている。運動部活動にも顧問の指導のもと熱心に取組んでいる。
- 運動部に所属していない生徒や長期休業中の生活において、生徒が運動の必要性を認識し、自ら積極的に運動に取り組んでいく習慣化に課題があり、学校全体として家庭とも連携を図りながら運動習慣確立の手立てを行っていく必要がある。

保健体育の授業での取組み

- 体づくり運動において、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力の向上を図り、目的に適した運動を組み合わせたり、運動の計画を立てたりして取り組むことができるようにする。
- 体育理論において、運動やスポーツの意義や効果などについて理解できるようにする。
- 新体力テストの結果を分析し、毎授業の中に不足している体力（上体起こし・シャトルラン等）についての補強運動を取り入れる。

運動部活動や家庭との連携

- 新体力テストの結果を各部顧問に配付し、練習内容に生かすようにする。
- 保護者懇談会等において、新体力テストの結果や家庭でできる体力向上の運動例を紹介し、日常生活における保護者の協力を得る。
- 新体力テスト等で自分の不足している体力要素について、向上させるためのトレーニングメニュー作りと実践を長期休業中の課題とし取組ませる。



【目標】

- 体力・運動能力の向上に係る取組を家庭とも連携し、学校全体として取組む。
- 運動をすることが得意と答えた生徒の割合を、H30年度までに70%にする。
- 1週間の総運動時間の平均を、H30年度までに40分を上回るようにする。